

青森県立高等学校将来構想検討会議 下北地区部会（第3回）概要

日時：平成27年5月27日（水）

9：30～11：20

場所：田名部高等学校

<出席者>

下北地区部会委員

相馬 俊二 地区部会長、遠島 進 地区部会副会長、長者久保 雅仁 委員、
二本柳 互 委員、村舘 洋介 委員、米持 聡 委員、和田 正顕 委員

1 開会

金教育次長から、二本柳 互 委員へ委嘱状を交付した。

事務局から委員を紹介した。

金教育次長から挨拶があった。

2 調査検討

地区部会長から、4月22日に開催された第2分科会において、「学校規模・配置について」の整理案が検討され、分科会長から各地区部会に対し意見照会があったことを踏まえ、本日の会議では、将来構想検討会議におけるこれまでの検討状況等について共通理解すること、意見照会のあった第2分科会整理案について当地区部会として意見交換をすることの二つの事項がポイントであり、このうち、第2分科会の整理案については、今後、地区の学校配置等に関する基本的な方向性を検討する基準となることから、この基準で良いかという視点で意見交換をしたい旨の発言があった。

(1) 将来構想検討会議におけるこれまでの検討状況について

事務局から、資料2、資料3及び資料4について説明した。

(2) 地区部会における検討の進め方について

事務局から、資料5及び資料6について説明した。

地区部会長から、「資料6にあるような生徒減少も見据えたうえで、当地区における将来の高校生の学習環境をより良いものとするためには、どういう学校の規模や配置のルールに基づいて検討する必要があるかという視点で、第2分科会の整理案について意見交換を行いたい」との発言があった。

(3) 学校規模・配置について

事務局から、資料7、資料8及び資料9について説明した。

地区部会長から「資料7の第2分科会整理案について、項目で区切りながら意見交換を進めたい。」との発言があった。

「1 学校規模・配置に関する基本的な考え方」について

委員から、次のような意見があった。

- 「高校教育を受ける機会の確保」と「充実した教育環境の整備」の両面に配慮する必要があるが、具体的に施策を進める際は、大変困難であると考え。ただ、困難であってもこの二つは欠かせない。どんな子どもでも一人一人を大事にした教育をしていきたいし、また、地域を担う人財を育成していきたい。そのためには、充実した教育環境が大事である。今は整理案であるが、この両面の配慮については、答申にも反映して欲しい。施策を進める際、地域の実情に応じてどちらに比重を置くか検討する必要はあると思うが、その場合でも、限りなく両面の考えを取り入れた施策にしていきたい。

「2 高等学校教育を受ける機会の確保」について

委員から、次のような意見があった。

- 一人一人の進路実現を後押しする際、地理的なハンディキャップや経済的な問題を抱えている生徒がいるが、誰一人、可能性を摘んではならないと考えている。現在ある進路の選択肢と同等以上の選択肢が今後も必要だと考える。
- 横浜地区からむつ市内の高校へ通う生徒やむつ市内から川内地区の高校へ通う生徒は、むつ市内からむつ市内の高校に通う生徒と比べ、時間的制約がかなりあり、その時点でハンディキャップができてしまう。自分で選択した高校なので仕方ないと思うが、通学に関して高校側の配慮が何かしらあればいいと思う。
- 市町村等との連携による生徒の通学環境の充実には、スクールバスの運行、通学費補助、寄宿舎の設置等あるが、子どもたちにとって良いのはスクールバスの運行だと思う。むつ市においては、小中学校の統合に伴ってスクールバスを運行しているが、かなり広域にわたり、また、多くの路線となっているため財政負担が大きい。スクールバスがちょうどよく高校に通えるような運行であれば、高校生と一緒に乗せることは可能であるが、むつ市で実施しているスクールバスは統合した小学校、中学校に配慮した路線での運行のため、高校生の利用に都合が良い路線とはなっていない。ただし、むつ市では現在、高校生に対して奨学金を貸与しており、授業料免除になってから利用状況は減っていたが、昨年度から増えてきている。理由としては、通学費に充てたいということであった。むつ市で設定している枠を超えていないので、

学校の統廃合等により希望者が増えてくるのであれば対応していきたいと考えている。

「3 充実した教育環境の整備」について

委員から、次のような意見があった。

- 「重点校」も「拠点校」も重要性において差はないと思うが、言葉の持つ印象として、「拠点」という言葉は、その機能に視点を置いて使っていることから、「重点校」についても例えば「中核校」とした方が、一般の方には誤解がなく伝わりやすいのではないかと思う。
- 地区を支える人財を育成する必要があるので、生徒が入りたい学校を作る必要もあるが、地域で求められる人財を育成する高校を作る必要もあると思う。地域で求められる人財育成のために、特化した教育課程を編成できるような重点校を設けることは必要だと思う。
- 医学部を目指す生徒、就職を目指す生徒、スポーツに力を入れる生徒等、多様な生徒に対応するために、選択の幅を広げて指導できる単位制は一つの方法として有効である。ただし、単位制を導入すれば全て解決するというわけではない。どういう目標をもって、どういう特色を作るかを考えた上で、単位制を導入する必要がある。また、併設型中高一貫教育については、6年間の一貫教育が可能であるため有効である。ただ、併設型は小学校6年で選抜するため、そこからの伸びは個人差が出る。他県ではトップ校が導入しているケースがあるが、学力差に幅が出て、下位層への補充授業等の実施を余儀なくされている場合がある。
- 下北地域では、農業や漁業も産業としてあるので、地域に子どもが残ってもらうため、また、一次産業の担い手育成のためにも、工業だけでなく農業や水産に関する学科があれば良いと思う。

「4 学校規模の方向性」について

委員から、次のような意見があった。

- 学校活動の維持のためには、ある程度の学校規模は基本として必要である。総論としては整理案にある学校規模が良いと思うが、各論としてはそれぞれの地域の実情を踏まえて検討する必要がある。また、通学の面から高校の再編を考えると、学校の位置についても十分検討する必要がある。
- 「標準」はあくまで目安であり、標準に満たない場合でも各地区の実情を考慮していただきたい。なお、「標準」という言葉で目安というニュアンス

は伝わると思う。

- 田名部高校の場合、現状の5学級では、理科の選択科目の内1科目が開設できず、また、難関大学受験のため必要となる倫理・政経のうち片方が開設できない状況である。重点校としては6学級が望ましいと考えるが、しかし、地域の実情に照らし、近隣の学校と連携する重点校の機能は5学級でも果たせなくはない。
- 募集停止によって他の高校へ通学することが困難な地区は、大間地区や川内地区だと考えられる。生徒数が減少していく中であって、スクールバスの運行等が整備されない状況であれば、地域の人にしてみれば残して欲しいと思うが、閉じるのもやむを得ないと思う。
- 川内校舎は旧むつ市から入学している子どもが多くいるが、通学のためのバス代の負担が大きい。近くの生徒が通えるように例えば定員20名くらいの分室のようなものを作るなどフレキシブルな配置を考えられないだろうか。

「5 学校配置の方向性」について

委員から、次のような意見があった。

- 地域との協議は必要。はじめに結論ありきではなく、丁寧に何度も協議を重ねてお互いの理解を深めていく必要がある。
- 募集停止や統合の具体的な基準を示せば、理解する地域の人はいらと思うが、学校がなくなることに関して、不満な気持ちはあると思う。ただ、基準を示す必要性はある。
- 募集停止に伴う通学支援は必要になってくる。
- 古い校名のままだと片方が残って、片方が消えるという印象を持つため、それを避けるという意味で校名を新しくする「新設」という表現は良いと思う。
- 「新設」という言葉は新しく希望に燃えて学校生活を送るという印象を持つので良いと思う。
- 統合する場合は、「新設」として新しい校名にした方が良いと思う。
- 生徒数が減少していく中で、少ない学級数で学校を残すよりは、複数の学科を設置した高校とし、連携した方がうまくいくと思う。例えば、総合学科

にはビジネス系列があるので、工業高校で作った製品の売り込み方を考えるなど、発展的な取組ができると思う。

「6 定時制課程及び通信制課程の方向性」について

委員から、次のような意見があった。

- 定時制課程及び通信制課程の配置については、現状のまま、継続して配置して欲しい。また、配慮して欲しいことが二つある。一つ目は、通信制について、下北から北斗高校まで通っている生徒もいるため、ICTを活用した遠隔授業ができるよう配慮して欲しいこと。二つ目は、定時制・通信制について、働きながら学ぶ生徒に加えて特別な事情を抱えた生徒にも学びの機会を提供するために、単に学校を配置するのではなく、ソーシャルワーカー等の専門職の配置を含めて配慮して欲しいこと。
- 不登校等何らかの原因を抱えて全日制に通えない生徒が多数いる中で、定時制課程が学ぶ場所や人と関わる機会となっているので、地区に一つ定時制課程を現状どおり配置して欲しい。
- 下北地区に昼間定時制を設置することについて検討いただきたい。
- 第3次実施計画において、工業科の定時制課程を見直すとあるが、これが将来的に廃止という意味合いを含んでいるのであれば、工業高校の作業等の活動を通して成長を遂げる生徒もいることを配慮して欲しい。

「7 学校規模・配置とともに検討すべき事項」について

委員から、次のような意見があった。

- 生徒同士の交流が大事だと思う。また、学校間での課外活動等の交流を通して情報発信ができると思う。
- 生徒が減少している中において、色々な地域から生徒に来てもらうのは必要だと思うが、現実的には非常に厳しいと思う。例えば、島根県の隠岐島前高校は町からのバックアップがあって実績を残しているが、そのことを考えると、高校が所在する自治体の協力が必要になる。また、魅力ある教育課程を編成することができるのかも必要になってくると思う。

本日の会議で出された意見を事務局が取りまとめ、それを地区部会長が確認した後、下北地区の意見として第4回第2分科会で長者久保委員から報告する旨の発言が地区部会長からなされた。

3 閉会